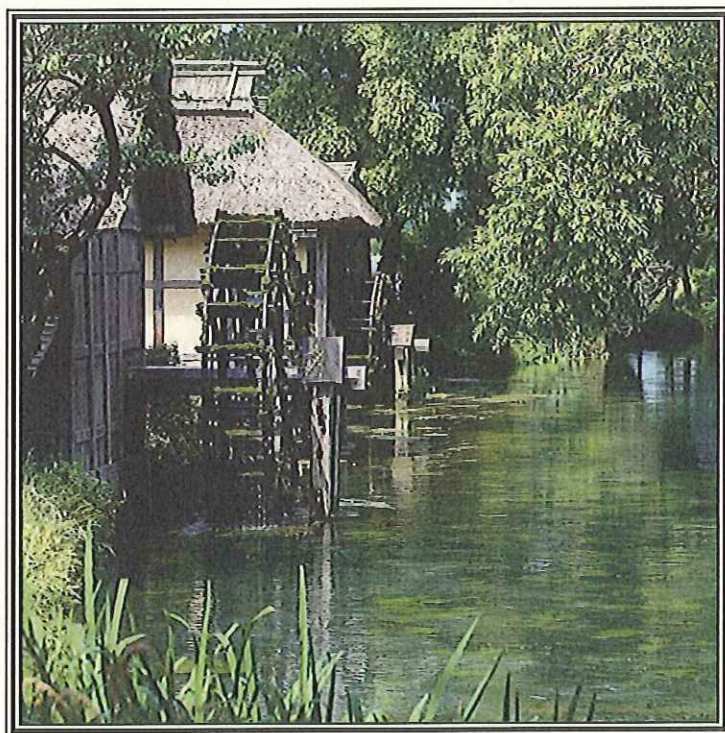


# 「水が織りなす安曇野今昔物語」講座

～ 穂高編 第1回 ～

## 「地形と歴史」

山と扇状地 安曇氏と仁科氏



日時 : 平成 23 年 8 月 19 日(金) 午後 7 時から

場所 : 穂高会館 講義室②

## 講師プロフィール

中島 博昭 氏 (なかじま ひろあき)

1934年 安曇野市穂高生まれ。

現在、地域史研究家、「安曇野文芸」編集長、安曇野塾運営委員。

長年、松本深志高校など県内の高校社会科教師を務めるかたわら、郷土の優れた人物や文化財の掘りおこしと顕彰、地域づくりに尽力。

前長野県短期大学講師。

著書 『鋤鍬の民権—松沢求策の生涯』

『がいどぶく 安曇野の里 穂高ものがたり』

『安曇野に八面大王は駆ける』

『探訪・安曇野—その旅と歴史ロマン』

『唄え、安曇節』

『常念山麓』

『犀川川筋ものがたり』

編著 『あ祖国よ恋人よ—きけわたつみのこえ上原良司』

ほか。

## 旧・穂高町の個性と魅力

### 第1回 地形と歴史

#### ★地形

位置 安曇野の中央部 安曇野の中で最も低い三川合流地点（海拔520m）に緩傾斜する平地

内容 山と複合扇状地

山 西方 北アルプス（「日本アルプス」のうち。中央— 南—）— 明治時代、英人  
ガウランド命名、ウエストン世界に紹介。 飛騨山脈 古くは「穂高見山」  
「日本の屋根」（日本列島の背骨 信濃川・木曾川の源流）

奥山（「精神の山」※）と前の里山（暮らしの山） 旧・穂高町ほど両者の  
重なるの美しく見える所はない。主峰常念岳→「常念山脈」

▲常念岳 古くは「まゆみ岳」 八面大王伝説の常念坊 ウエストン「ペニ  
ン山脈の女王ワイスホーンを思わせる優美な三角形」 白井吉見※

▲有明山 天の岩屋伝説 「信濃富士」 古くからの名所 有明山神社  
「かたしきの衣でさむくしぐれつつ有明山にかかるむら雲」（後鳥羽  
上皇） 『残月集』（有明・矢野口保邦編集）

東方 筑摩山地と中山山地（暮らしの山） 光城山（ひかる） 見ても登っても可  
扇状地 山から川の流れが平地に出たところで減速し、山の斜面の削られた砂礫が扇状  
に堆積した地形

特色 ①土質が砂礫のため透水性が大きく、不毛の土地。農業に不適。

先人たちの開発により現在の安曇野が実現

②上から扇頂・扇央・扇端の部分に分かれ、扇頂から浸透した地下水が扇端で  
湧水となって現われる。集落形成は扇頂—扇端—扇央という順序で進展した。

③常念岳—烏川扇状地 安曇野で最も広い。西南から北東へ傾斜

有明山—中房川扇状地 北西から南東へ傾斜

④旧・穂高町は最も扇状地の特色を表している。景観的にも。

複合  
扇状地

#### 旧・穂高町の個性 魅力の基調

山岳 「高峻」—「高さ」「きびしさ」「けわしさ」「理想性」「普遍性」

扇状地 「穏和」—「やさしさ」「なごやかさ」「暖かさ」「慈愛」「素朴さ」

のバランス

#### ★歴史 先人たちの開発の歩み

1. 扇頂（山麓） 縄文時代 離山・牧・他谷・有明

2. 扇端（湧水地帯の上縁） 弥生時代～古墳・大和政権～平安時代

- ①飲料水は烏川・中房川からの自然流から（縦堰） 柏原沢、穂高沢  
 ②古墳（豪族・有力者の墓） 後期の群集墳 居住地から離れた高所に築く。  
 有明の陵塚・ギシキの岩屋（ドルメン古墳）

③大和政権から律令国家時代

**安曇氏の統治** 6世紀後半北九州（志賀島）から一族移住（蝦夷対策か）  
 海人族（漁労・交易・航海・海軍）→「わだつみ」→「安曇」  
 海 尊称

湖の水を引かせ開拓（泉小太郎伝説、鉄製の鋤－穂高神社・御船会館蔵）  
 国造（くにのみやつこ）→郡司

・科野国（信濃国）10郡伊那・諏訪・筑摩・安曇・更科・水内・高井  
 埴科・小県・佐久

・ただ1つ人物名 4郷 南から高家・八原・前科・村上  
 租税徴収単位の集落 やはら さきしな

1郷 500戸 1戸20人 1000人 4郷で4000人

条理制土地区画

・郡司の役所 所在地 八原郷とみられる。

鎮護社 穂高神社 綿津見命（祖先神）・穂高見命（移住・開拓の安曇氏）  
 祀る。奥社は穂高岳の麓の明神池畔にある。お船祭り

・実証史料 正倉院御物の布袴墨書銘（764年） 調（税）として「前科郷  
 戸主安曇部真羊」が納付、事務取り扱いは「安曇郡司の主帳・安曇部百鳥」  
 が行なつたと書かれている。

・安曇氏 姓は臣・連（むらじ）の高い地位にあり、天皇に仕え、僧侶を統制  
 する職（推古朝）や白村江の戦では阿曇比羅夫が指揮官（穂高神社・若宮  
 ）、宮中の食事の用意をする内膳職をつとめる。

**仁科氏の系統** 平安時代末から村上郷（大町・社）に移住・定着、  
 勢力を伸ばす。中世（鎌倉・室町・戦国）の安曇地方の支配者

・最初 平姓仁科氏 仁科御厨・仁科庄（大町）の荘官 盛遠父子 京都・院  
 の西面の武士となる。（後鳥羽院御製）

・京文化の影響うける 松尾薬師堂 高瀬川などの地名

・矢原御厨（荘官・細萱氏－矢原沢開削）への勢力伸張 一族古厩氏・堀金氏  
 穂高氏に。大塔合戦（1400）－仁科配下に等々力氏（穂高会館周辺）

・扇央の開発 千国街道（定期市中心）→仁科街道

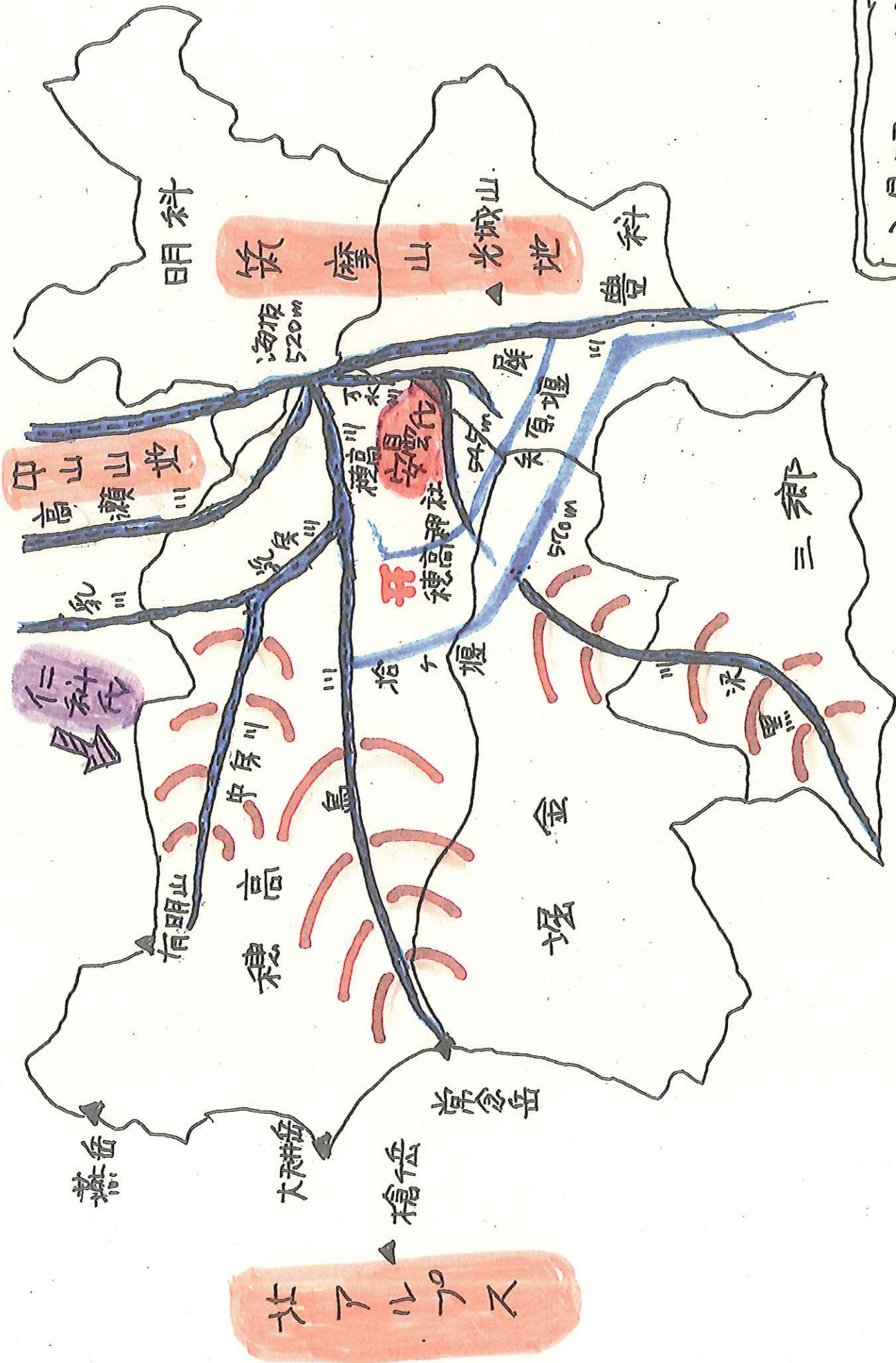
・戦国時代 武田統治下→仁科五郎盛信 血筋・川筋の領国建設 扇央の開発

参考文献

- 『穂高町誌 歴史編上・民俗編』 ●『がいどぶつく・安曇野の里 穂高ものがたり』  
 中島博昭著 ●『安曇野の里 信州穂高』同 ●『探訪・安曇野』同（郷土出版社）

安曇野市

4



23

メモ

A series of horizontal dotted lines for writing, arranged in a regular pattern across the page.

参考文献貸出場所

	中央図書館 (みらい)	豊科図書館 (まほろ)	三郷図書館	堀金図書館	明科図書館
穂高町誌 歴史編上・民俗編	○	○	△	△	○
がいどぶつく・安曇野の里 穂高ものがたり		○			
安曇野の里 信州穂高	○				
探訪・安曇野	○	○	○	○	○

○・・・貸出用あり

△・・・館内閲覧用のみ